

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

- 分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験 -

1. 今後の見通し

予測期間: 2002年12月上旬
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量は極めて低い水準と推定される。
- (2) 漁場: 漁船による操業はなく、漁場は形成されない。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は12月上旬には断続的となり、極めて低い水準となる。
- (2) 漁場: 漁場は中・南部海域で散発的な形成となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 来遊量は12月上旬には前年を上回る水準で推移するものの、急激に減少する。
- (2) 漁場: 漁場は塩屋埼周辺を中心に南北にやや移動しつつ形成される。

2. 予測の概要

海 域		12月上旬
道東海域	来遊量	
	動向	
	漁 場	
三陸海域	来遊量	
	動向	断続的
	漁 場	中・南部沿岸 域 散発的
常磐海域	来遊量	
	動向	急減傾向
	漁 場	塩屋埼周辺

3. 漁況の経過概要

(11月中旬)

11月中旬の漁況経過の特徴は、道東海域では操業が全くなき、三陸海域では漁獲状況からみた来遊資源量の水準が前年・平年を大きく下回り、常磐海域では上旬並みの水準で持続し、前年を上回る状況であった。漁場は、三陸海域では久慈～釜石～気仙沼沿岸域で分散的に形成され、常磐海域では旬前半に塩屋崎沿岸から犬吠崎周辺に、後半に請戸沖から日立沿岸にかけて形成された。魚体組成は大型魚の割合が減少し、小型魚の割合が増加した。

1) 道東海域

(1) 来遊量: 道東海域における操業が皆無となり、棒受網漁業は終漁となった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量は、前旬並みの低位の水準で推移し、前年・平年を大きく下回る水準であった。

(2) 漁場: 親潮第1分枝から張り出した冷水が三陸中・南部沿岸域に達し、その先端付近で、漁場が11～14日にトド崎付近に、その後は久慈から気仙沼にかけての沿岸域に日々変化しつつ分散的に形成された。

(3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合の多くが1-2-7～1-3-6であったが、群れの中にはそれらの割合が0-2-8～0-1-9のものがあり、前旬に引き続き小型化の傾向が続いた。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月中旬の来遊量は、ほぼ前旬並の水準で、前年を上回る状況であったが、平年の水準よりは下回った。

(2) 漁場: 親潮系の冷水の常磐中部～鹿島灘沿岸域への差込と黒潮系の暖水の犬吠崎～塩屋崎沖への波及との関係による海況の変化に対応し、日々漁場形成が変化した。11月11日に塩屋崎～那珂湊沿岸域、12日に塩屋崎～犬吠崎沿岸域と請戸沿岸、13日に日立～犬吠崎沿岸域と塩屋崎沖、14日に那珂湊沖にと漁場が南北にやや移動して形成された。後半には暖水の波及がより強まって、漁場は19日には塩屋崎東北東30海里～日立沿岸域に連なって、20日には請戸～塩屋崎沖合と日立沿岸域とに分かれて形成された。

(3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合が1-4-5～1-2-7主体であった。